

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

目標に対して  
 A:計画どおりに進んでいる  
 B:計画より遅れている  
 C:その他

## 基本目標 I いきいきとした潤いのある暮らしづくり

1 健康づくりと介護予防の充実  
 (1)健康診査・検診の推進 (第6次計画 P68)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
保健センター	がんや生活習慣病、歯周病の予防や重症化を防ぐために、各種健診・検診を実施する。	【乳がん検診(集団)の状況】 ・マンモグラフィ18回/年実施 受診者数 2,065人  【子宮がん検診(集団・個別)の状況】 ・受診者数 1,728人  【いきいき世代個別歯科健診の受診状況】 ・40歳194人 ・50歳164人 ・60歳152人 ・70歳194人 計704人 対象者数 8,177人(受診率 8.6%)  参考:H27受診率の県の平均値 9.2%	【乳がん検診(集団)の状況】 ・マンモグラフィ20回/年実施 受診者数 2,029人  【子宮がん検診(集団・個別)の状況】 ・受診者数 1,474人  【いきいき世代個別歯科健診の受診状況】 ・40歳184人 ・50歳158人 ・60歳137人 ・70歳143人 計622人 対象者数 7,468人(受診率 8.3%)	【乳がん検診(集団・個別)】 ・マンモグラフィ12回/年実施 受診者数 2,500人(集団1,600人個別900人)  【子宮がん検診(集団・個別)】 ・受診者数 1,850人  【いきいき世代個別歯科健診】 ・40歳190人 ・50歳160人 ・60歳145人 ・70歳165人 計660人 対象者数 7,622人	B	乳がん検診は、平成26年度から無料クーポン配布対象者が40歳のみとなり、その影響でコールリコール対象者(当年度クーポン券を配布したが、未使用で過去5年間未受診の者)が減少するなどの要因により受診者が減少したと考える。平成29年度からマンモグラフィの個別検診を開始するため受診者の増加を期待している。 また、子宮がん検診についても、平成26年度から無料クーポン配布対象者が20歳のみとなり、その影響でコールリコール対象者が減少するなどの要因により受診者が減少したと考えられる。 いきいき世代個別歯科健診については、対象者数が減少している点が受診者数の減少の要因の1つとして考えられる。	疾病予防や病気の重症化を防ぐため、各種健診・検診を実施する。 各種健診・検診の受診者を増やすため、すべての集団検診の一部休日実施化や同日に複数の検診の実施などを改めて検討し、個別検診の普及を図り、受診しやすい体制づくりに努める。
保険年金課		【特定健康診査及び健康診査の状況】 ・受診者数 11,763人 (国・県への実績報告値) ・【後期高齢者】受診者数 6,076人	【特定健康診査及び健康診査の状況】 ・【国保】受診者数 11,218人 (国・県への実績報告値) ・【後期高齢者】受診者数 6,412人 【参考】H26実績 愛知県の対象者3,103,531人 受診者数1,564,293人 受診率 50.4%	【特定健康診査及び健康診査】 6月1日から翌年2月14日までで実施予定	B	特定健康診査は、平成28年度から受診期間をそれまでの6月1日から12月28日までを翌年2月15日まで延長した。それにより、受診希望者の選択肢を増やす事になり、その実効性はより高まったと考えている。	小牧市特定健康診査等実施計画及びデータヘルス計画に基づき、特定健診の実施率60%に向け、引き続き、市内医療機関へ実施委託しつつ、受診機会の拡大のため公共施設などにおける集団健診の実施も検討していく。しかしながら、被保険者の減少や職域健診、自費健診など健診を受診する機会の拡大による受診率の低迷も予想され、今後は、特定健康診査以外の受診結果の掌握のため、被保険者、会社、商工会議所などとの連携も必要となるものと考えている。
保健センター	受診率向上のため、自ら健康に関心を持ち、定期的に健診等を受けるよう周知啓発に努める。	【各種がん検診受診率】 ・胃がん検診受診率 22.9% ・大腸がん検診受診率 34.8% ・肺がん検診受診率 35.9% ・乳がん検診受診率 9.1% ・子宮がん検診受診率 5.7%  ※子宮がん検診は20歳以上の受診率。その他は40歳以上の受診率	(胃)15.4% (大)27.8% (肺)29.8% (乳)12.3% (子)13.8%  ※子宮がん検診は20歳以上の受診率。その他は40歳以上の受診率	【各種がん検診受診率】 ・胃がん検診受診率 23.4% ・大腸がん検診受診率 34.6% ・肺がん検診受診率 35.8% ・乳がん検診受診率 11.3% ・子宮がん検診受診率 5.2%  ※子宮がん検診は20歳以上の受診率。その他は40歳以上の受診率	B	胃・大腸・肺・乳・子宮がん検診受診率は、低い状況にある。特に子宮がん検診については、平成26年度から無料クーポン配布対象者が20歳のみとなり、その影響でコールリコール対象者(当年度クーポン券を配布したが、未使用で過去5年間未受診の者)が減少するなどの要因により受診者が減少したため受診率が低下したと考える。 集団検診の回数、個別検診の医療機関数は確保できており受診できる環境は整えられている。	自ら健康に関心を持ち、定期的に健診・検診を受診するよう啓発する。 より多くの市民が自身の健康を意識し、健診・検診を受診したくなるよう周知啓発方法の工夫に努める。
保険年金課		【特定健康診査及び健康診査の状況】 ・勧奨ハガキ発送 22,252通 (内、受診した人の数 6,648人) ・勧奨者の受診率 29.88% ※勧奨ハガキ送付者のうち、発送日の翌日以降の受診者 ・勧奨ハガキ送付前受診者 4,872人 勧奨ハガキ発送日 平成27年9月25日)	【特定健康診査及び健康診査の状況】 ・勧奨ハガキ発送 22,134通 (内、受診した人の数 7,997人) ・勧奨者の受診率 36.13% ※勧奨ハガキ送付者のうち、発送日の翌日以降の受診者 ・勧奨ハガキ送付前受診者 4,843人 (勧奨ハガキ発送日 平成28年9月30日)	【特定健康診査及び健康診査】 7月以降、前年度未受診者への受診勧奨をはじめ、勧奨ハガキの郵送も例年と同じく実施予定。 市広報にて、啓発も実施予定。 医療機関をはじめ公共施設にもポスター掲示の依頼を実施していく。 特定健診受診券や受診履歴をわかりやすくするためA4からA3へ用紙サイズを変更し毎年の継続受診の啓発を行う。	A	受診期間を延長したことにより、受診しやすい環境づくりと併せて未受診者への勧奨にも力を注ぐことができたと考えている。方法として、ハガキ勧奨に加えて電話勧奨も実施し受診意欲の向上に努めている。	特定健診未受診者の原因の究明と分析を行い、加入者全体の生活習慣病リスクを減らしていく啓発や支援活動からターゲットを絞った勧奨までを行うことで、定期的な特定健診の受診習慣が身につくように啓発、周知していく。 また、健診結果など国保加入者における医療情報分析を進め、加入者へ生活習慣病の重症化予防のために適切な情報を提供していくことで、適正な医療機関受診、薬剤使用を促し、医療費の適正化に努める。

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

(2)健康に関して学ぶ場や相談の場の充実（第6次計画 P69）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
保健センター	身近な場所において健康に関して学ぶ場や気軽に相談できる場を充実するとともに、主体的に健康づくりや介護予防に取り組める仕組みづくりに着手する。	<b>【医師健康相談の状況】</b> ・保健センター 90回 154人 ・第1老人福祉センター 24回 70人 ・第2老人福祉センター 24回 92人  <b>【保健師健康相談の状況】</b> ・保健センター 45回 345人 ・味岡市民センター 12回 44人 ・東部市民センター 12回 59人  <b>【生活習慣病予防相談の状況】</b> (保健師・栄養士による) ・保健センター 40回 83人  <b>【こまき健康マイレージの状況】</b> ・まいか交換者 76人	<b>【医師健康相談の状況】</b> ・保健センター 90回 139人 ・第1老人福祉センター 24回 46人 ・第2老人福祉センター 24回 80人  <b>【保健師健康相談の状況】</b> ・保健センター 46回 377人 ・味岡市民センター 12回 61人 ・東部市民センター 12回 74人  <b>【生活習慣病予防相談の状況】</b> (保健師・栄養士による) ・保健センター 33回 70人  <b>【こまき健康マイレージの状況】</b> ・まいか交換者 113人	<b>【医師健康相談】</b> ・保健センター 90回 180人 ・第1老人福祉センター 24回 100人 ・第2老人福祉センター 24回 100人  <b>【保健師健康相談】</b> ・保健センター 45回 400人 ・味岡市民センター 12回 80人 ・東部市民センター 12回 80人  <b>【生活習慣病予防相談】</b> (保健師・栄養士による) ・保健センター 40回 100人  <b>【こまき健康マイレージ】</b> ・まいか交換者 500人	B	医師相談については、施設内にチラシやポスターの掲示を、また老人福祉センターの健康相談は館内でアナウンスをしていただくなど周知を図る取り組みをしたが、利用者は減少している。当日の担当医が相談したい内容の専門でないことや、医師からも相談時間について意見をいただくこともあり、今年度医師会とも調整する予定である。 こまき健康マイレージについては、まいか交換者数は実施期間を拡大したが、当初の予想ほど増えなかった。	<b>【医師健康相談】</b> チラシやポスターなどで周知を継続し、また費用対効果も考え、相談事業について検討する。 <b>【保健師健康相談】</b> 保健師健康相談は老人クラブなど各団体から依頼があれば実施できることを、老人クラブ連合会の総会の際に案内している。各団体から依頼があれば実施しており、引き続き周知していく。
保健センター	口腔機能の重要性や低栄養予防について積極的に情報発信するとともに、介護スタッフや支援者、高齢者を介護する方へも普及啓発をする。	(教室・研修の状況) ・おうち元気はつらつ教室 15回 400人 ・いきいき元気塾 12回 433人 ・介護スタッフ対象研修会 1回 46人	(教室・研修の状況) ・おうち元気はつらつ教室 11回 195人 ・いきいき元気塾 12回 408人 ・介護スタッフ対象研修会 1回 52人	(教室・研修) ・おうち元気はつらつ教室 15回 250人 ・いきいき元気塾 12回 500人 ・介護スタッフ対象研修会 1回 50人	B	平成27年度に比べ、平成28年度は1回当たり参加者数が少ないため実績として減少している。対象となるのが、老人クラブですが、老人クラブの来所者数となるため、団体としての人数減少が要因のひとつかと思われまます。 今年度も引き続き出前講座をはじめ、広く市民に周知を図ると共に、地域包括ケア推進課と連携して、介護予防リーダー等高齢者と関わる地域のリーダー的存在の方にも介護予防の知識として講座の案内受講を促す。	口腔機能の維持増進や低栄養予防に着目し、これに関する市民への啓発活動として様々な事業を実施しており、今後も引き続きご依頼いただく老人クラブや各種団体への啓発を行う。 また、幅広い年齢層の市民に対しても、口腔機能の重要性や低栄養予防について啓発できるよう取り組んでいきたいと考える。
保健センター	保健連絡員などが主体的に計画する健康教室を増やす。	(健康展・健康教室の状況) ・地域の健康展 26箇所 参加者数 2,409人 ・保健連絡員による健康教室 開催回数 216回 参加者数 5,085人	(健康展・健康教室の状況) ・地域の健康展 34箇所 参加者数 2,597人 ・保健連絡員による健康教室 開催回数 213回 参加者数 5,175人	(健康展・健康教室の状況) ・地域の健康展 35箇所 参加者数 2,800人 ・保健連絡員による健康教室 開催回数 220回 参加者数 5,200人	B	地区の健康展については、大きい健康展に限らず地区単位での健康展も要望があり実施数、参加者数共に増えている。 一方で地区での健康教室については、定例化されている教室も増えているが、参加者数の増加が見られない状況である。開催日時や来所者の年齢、実際に開催されている事業内容について市民のニーズにあっているものか、行ってみたい内容かなど検討を行う。	保健連絡員をはじめとする地区のボランティア等とも協力し、健康づくりを地区単位で実施する。また地区で開催される3あい事業等と併せて行うなど、区との調整をし、若い世代なども参加できるよう機会を作る。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

(3) 介護予防事業の充実及び推進 (第6次計画 P70)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
長寿・障がい福祉課 保健センター	介護予防事業が必要な方の把握に努め、その人その人に応じた介護予防事業につなげられるような体制の整備を図る。	【基本チェックリストの送付状況】 ※対象者は70歳～84歳の高齢者 ・配布数 17,785人 ・回収数 12,865人 ・回収率 72.3%  【二次予防教室の状況】 ・集団による複合教室(運動器・口腔・栄養教室) 開催回数 8教室(1クール12回) 参加者数 124人 ・個人による運動器 参加者数 21人 ・訪問による運動器 参加者数 1人	【基本チェックリストの送付状況】 ※対象者は70歳～84歳の高齢者 ・配布数 18,097人 ・回収数 12,665人 ・回収率 70.0%  【二次予防教室の状況】 ・集団による複合教室(運動器・口腔・栄養教室) 開催回数 9教室(1クール12回) 参加者数 147人 ・個人による運動器 参加者数 9人 ・訪問による運動器 参加者数 2人	平成29年度より一般介護予防事業の介護予防把握事業として、簡易版チェックリストを作成し、要介護(支援)認定を受けていない65歳以上の独居又は高齢者のみ世帯の方に送付し、状況を把握する。返信の無かった方のうち、把握が必要と思われる方は、地域包括支援センターの職員が訪問し、状況把握を行う。  地域包括支援センター職員が、サロン等に出向いた際に、簡易版チェックリストを活用し、把握を行う。  簡易版チェックリストにより介護予防が必要な方には、一般介護予防事業で実施する介護予防教室の案内を送付し、介護予防事業へつなぐために地域包括支援センターの職員が訪問等を行う。	B	二次予防教室の集団による複合教室への参加者は、会場を1ヶ所増やしたことにより増加したが、個人による運動器の教室の参加者は、減少した。 また、基本チェックリストにより、介護予防が必要な方を介護予防教室へつなぐため、結果の送付とともに教室参加への案内や地域包括支援センター職員による訪問や電話での介護予防教室への案内を行ったが、微増にとどまった。	郵送によるチェックリストの実施は、回収率や介護予防への継続性という点で課題も多いため、効果的な把握の方法について検討を進める。 地域包括支援センターのアウトリーチ機能を強化し、地域で孤立する支援が必要な高齢者の状況把握や、ニーズの掘り起こしに努める。また、地域の関係機関などから得た情報を集約し、介護予防が必要な者の把握に努める。 老人クラブの活動を支援し、地域での見守り、支え合いの体制を確保する。
長寿・障がい福祉課 地域包括ケア推進課	健康づくりや介護予防の取り組みを支援するトレーナー役の人材として、元気な高齢者を養成するなどの体制を構築する。	【愛知県介護予防リーダー養成研修参加状況】 ・研修修了者:5人	【愛知県介護予防リーダー養成研修参加状況】 ・研修修了者:12人 ※H28年度で県主催の養成講座修了 ・修了生によるボランティアグループ「日向ぼっこ」(20名)を設立 ・地域の居場所(サロンなど)において介護予防教室などを実践	小牧市版の介護予防推進リーダー養成講座を開催する。併せて、リハビリの専門職と連携し、地域における介護予防体操を構築し、身近な地域での介護予防の強化を図る。	A	計画的に介護予防の荷い手を養成することが出来た。	ボランティアである介護予防推進リーダーが自信をもって地域における健康づくりや介護予防を推進するため、リハビリテーション専門職による支援体制を構築するとともに、両者の連携のあり方について整理し、介護予防の充実、強化を図る。
長寿・障がい福祉課 地域包括ケア推進課 保健センター	閉じこもりがちになる高齢者の方でも参加しやすいよう、歩いて行ける範囲での拠点づくりを進める。	【閉じこもり予防の会開催状況】 ・開催数 4箇所 ・ボランティア数 65人 ・参加者数 64人  【ふれあい・いきいきサロンの状況】 ・サロン数 35箇所 ・述べ参加者数 13,696人	【閉じこもり予防の会開催状況】 ・開催数 4箇所 ・ボランティア数 60人 ・参加者数 51人  【ふれあい・いきいきサロンの状況】 ・サロン数 49箇所 ・述べ参加者数 18,297人	【閉じこもり予防の会開催】 ・開催数 4箇所 ・ボランティア数 65人 ・参加者数 65人  【ふれあい・いきいきサロン】 ・サロン数 65箇所 ・述べ参加者数 24,000人	A	閉じこもり予防が必要な人は、高齢化が進むにつれ増える傾向にあり、身近な地区で集える場所の確保が必要となる。閉じこもり予防の会の参加者数は減少しているが、サロン数の増加とともに、サロン参加者数が順調に伸びてきている。  さまざまな機会を通して、地域住民のなかで、地域の身近な場所における“居場所”の必要性が浸透したことにより、居場所(拠点)が順調に推移している。	自分の住み慣れた地区で、集える場の提供を増やせるよう、地区のボランティア育成に努める。  サロンという形ではないものの、老人会、地域3あい事業などさまざまな形態での地域の居場所が設置されており、こうした地域資源を整理し、居場所の空白地を中心として、居場所づくり支援を実施する。 また、「来ない人への対応」「独居・高齢者のみ世帯の見守り」など、居場所を通して明らかになった課題に対応するための活動につなげていく。

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

2 生きがいづくりと社会参加  
 (1)生涯学習・趣味・スポーツ活動の促進 (第6次計画 P73)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課		【ふれあい・いきいきサロンの状況】 ・サロン数 35箇所 ・述べ参加者数 13,696人	【ふれあい・いきいきサロンの状況】 ・サロン数 49箇所 ・述べ参加者数 18,297人	【ふれあい・いきいきサロン】 ・サロン数 65箇所 ・述べ参加者数 24,000人	A	協働提案事業により、市民団体である“結いのまちづくり応援隊”と連携し、地域の居場所づくりを推進した。 「地域の居場所辞典」「居場所立ち上げマニュアル」「地域の居場所プロモーションPV」の作成、地域の居場所ボランティア養成講座を開催し、53名の方が参加した。この受講生を中心に、平成29年度から新たな居場所が立ち上がる予定であり、順調に推移していると考えられる。	地域の居場所については、第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画に掲げたとおり、平成33年度までに70箇所の設置を目指す。 また、地域の支え合いの必要性を普及啓発するなかで、団塊シニア世代の地域デビューを後押しする取り組みをきっかけとして、住民主体の“ちょっとした手助け”の展開を目指す。
長寿・障がい福祉課		【寿学園の状況】 ・団数 151団 ・生徒数 2,320人 ・開催回数 11回 ・課外学習 1回	【寿学園の状況】 ・団数 146団 ・生徒数 2,294人 ・開催回数 11回 ・課外学習 1回	【寿学園】 ・団数 146 団 ・生徒数 2,300人 ・開催回数 11回 ・課外学習 1回	A	団数及び生徒数は微減しているが、防犯や健康、娯楽などの高齢者に関心の高い授業を企画し、教養の向上や、交流、外出の機会の提供を図ることができた。	参加者のニーズが高い内容の授業を企画し、教養の向上や心身の健康保持につなげられるよう引き続き寿学園を開催する。
生涯学習課	目的や目標のある生活は健康づくりの基本であることから、自らの得意分野を活かし、何かに取り組み高齢者が増えるよう、生涯を通じて幅広い分野に渡った場の確保、支援、育成を図る。 (例:寿学園、ゆうゆう学級、地域3あい事業、シルバースポーツ大学 など)	【ゆうゆう学級の状況】 ・学級数 5学級 ・参加者数 200人  【市民講座各種の状況】 ・講座数 49講座 ・参加者数 1,302人  【地域3あい事業の状況】 ・実施地区 69地区 ・行事回数 818回 ・参加人数 85,336人	【ゆうゆう学級の状況】 ・学級数 4学級 ・参加者数 184人  【市民講座各種の状況】 ・講座数 56講座 ・参加者数 1,192人  【地域3あい事業の状況】 ・実施地区 70地区 ・行事回数 740回 ・参加人数 85,920人	【ゆうゆう学級】 ・学級数 4学級 昨年度と同様に運営を行っている。  【市民講座の状況】 前期26講座の開講を予定している。後期についても26講座程度の開講を予定している。  【地域3あい事業の状況】 昨年度と同様に運営を行っている。	A	各事業とも、順調に進捗している。	【ゆうゆう学級】 寿学園との類似点が多く、見直しが必要である。ただし、ゆうゆう学級には学級形成での仲間づくりや学びを重点においている点が寿学園と差別される。  【市民講座】 市民企画講座を開催することで、知識・教養を高め、技能の習得や趣味を広げるとともに、身につけた知識・技能を活かして自ら講師として講座を企画するなどの、市民相互のつながりを深める場を提供していきたい。  【地域3あい事業】 小学校区地域協議会との類似点が多く、見直しが必要である。高齢者のみ特化したものではなく、子どもも含めた支え合いの地域づくりを補助する事業として、今後も継続していく予定である。
スポーツ推進課		【シルバースポーツ大学開催状況】 日時 平成27年 5月21日 6月4日・18日 7月9日・16日 8月6日 9月10日・17日 10月8日・15日 11月5日・12日 12月3日・17日 平成28年 1月7日・27日 2月10日・18日 3月3日  ・場所 パークアリーナ小牧 ・回数 19回 ・参加者数 40人	【シルバースポーツ大学開催状況】 日時 平成28年 5月19日 6月2日・16日 7月7日・14日 8月4日 9月8日・15日 10月6日・13日 11月10日・16日 12月8日・15日 平成29年 1月12日・25日 2月2日・9日 3月9日  ・場所 パークアリーナ小牧 ・回数 19回 ・参加者数 39人	【シルバースポーツ大学開催】 日時 平成29年 5月18日 6月8日・29日 7月13日・20日 8月10日 9月7日・14日 10月5日・12日 11月9日・16日 12月7日・14日 平成30年 1月11日・18日 2月8日・15日 3月8日  ・場所 パークアリーナ小牧(予定) ・回数 19回(予定) ・参加者数 40人(予定)	A	計画どおり、シルバースポーツ大学を全19回39人が受講した。	今後も引き続き、年間1教室を開催し、高齢者の体力維持と健康増進を図る。
農政課	農作業への関心が高まっている一方、耕作放棄農地が増加していることから、この両者の持つニーズを調整できる仕組みを検討する。	【遊休農地活用事業の状況】 ・池之内市民菜園利用区画数 42区画 参加者数 43人	【遊休農地活用事業の状況】 ・池之内市民菜園利用区画数 46区画 参加者数 36人	【遊休農地活用事業】 ・池之内市民菜園利用区画数 46区画 参加者数 39人	A	池之内市民菜園の参加者は横ばいで推移しているが、参加者自ら野菜を栽培することにより農業の理解を深め、また参加者との交流を図ることができている。	農業を通じ、農業に対する理解を深め、また人との交流を図るきっかけとして市民菜園の展開を目指す。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

(2)シルバー人材センター・老人クラブ活動への支援（第6次計画 P74）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
長寿・障がい福祉課	地域で高齢者を支えるために、シルバー人材センターや老人クラブの存在はこれまで以上に重要となることから、基幹的な組織となるようその活動に対し積極的に支援を行う。	【シルバー人材センターの状況】 ・会員数 516人  【老人クラブの状況】 ・クラブ数 77クラブ ・会員数 5,314人	【シルバー人材センターの状況】 ・会員数 537人  【老人クラブの状況】 ・クラブ数 75クラブ ・会員数 5,120人	シルバー人材センターへ補助金を交付し、運営に対する支援を行う。 老人クラブに対し補助金を交付し、活動を支援するとともに、補助用件を拡大し、クラブ活動の促進を図る。	A	シルバー人材センターに対し、補助金を交付し、運営を支援することにより、請負・委任の受注件数、派遣事業の契約金額が増加するとともに会員数が微増し、高齢者の就業機会の拡大を図ることができた。 老人クラブは、クラブ数、会員数が減少したものの、補助金を交付して活動を支援することにより、地域で高齢者を支える組織の維持を図ることができた。	地域資源として活動している老人クラブに対し、引き続き支援を行うことにより、地域で高齢者を支える活動の促進を図る。 高齢者の新たな就業先の開拓として、登録者のシルバー人材センターに対し、引き続き支援を行うことにより、地域での高齢者を支える活動の支援を図る。
長寿・障がい福祉課	就労意欲の高い高齢者を支援するため、シルバー人材センターの業務拡大を支援する。	・補助金を交付し27事業所の新規開拓を行った。	シルバー人材センターへの運営に対する補助金を交付し、新たな就業先の開拓が行われた。 市の再任用職員をシルバー人材センターの役職員として配置し、運営面で質の確保のための支援を行った。	シルバー人材センターへ補助金を交付し、運営に対する支援を行う。 市の再任用職員をシルバー人材センターの役職員として配置し、運営面で質の確保のための支援を行う。	A	シルバー人材センターに対し、補助金を交付し、運営を支援することにより、請負・委任の受注件数、派遣事業の契約金額が増加するとともに会員数が微増し、高齢者の就業機会の拡大を図ることができた。 市の再任用職員をシルバー人材センターの役職員として配置する支援を実施し、運営面で質の確保を図ることができた。	

(3)地域活動・就労・ボランティア活動への促進（第6次計画 P75）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 介護保険課	新しい総合事業では、多様な主体による多様なサービスの提供が想定されることから、地域で活動するNPOやボランティアなどの力が必要となるため、こうした活動の担い手としての元気な高齢者が積極的に参加しやすい環境を整備する。	【ふくし座談会の開催状況】 《区単位》 ・14区、計20回開催 《小学校区単位》 ・9小学校区開催 ※地域協議会が未設置の小学校区等で開催	【ふくし座談会の開催状況】 《区単位》 ・13区、計13回開催 《小学校区単位》 ・全16小学校区開催	【ふくし座談会の開催予定】 《区単位》 ・20区、計25回開催 《小学校区単位》 ・地域協議会が設立されたところは、役員の方との調整し、地域福祉に関する取組みを推進する。 ・今後、地域協議会の設立を目指す小学校区では、具体的な取組みの実践に向けたふくし座談会を地域福祉コーディネーターが開催する。(小学校区単位で各2回開催予定)	B	地域福祉コーディネーターの地域に根ざした活動の成果で、自分たちの地域のために、自分たちの生きがいが、健康づくりに向け地域福祉活動が開催されている。しかし、新しい総合事業で期待されているサービスにつながる活動には至っていない。	地域限定型ではあるが、総合事業で期待されているサービスに資する活動を展開したいといった意向を持った地域住民が出てきており、活動実施に向けた支援を行う。 また、併せて、ふくし座談会などのネットワークを活かし、他地区での展開を目指す。 地域福祉の活動者から、活動を通して見えてきた課題などを整理し、既存の活動からのステップアップを意識づける取組みを推進する。 例：サロン(来る見守り)⇒出向く見守り⇒訪問先での傾聴、ちょっとした手助けへの展開など
地域包括ケア推進課	既存のボランティア団体の活動への支援や、情報提供に努め、高齢者が地域で活動しやすい環境を整え、ボランティアの活動の促進、多様化、重層化を目指す。		【サロン連絡会の開催状況】 ・6地区 127名参加 ・住民主体の地域の居場所「サロン」が増加してきたことをうけ、サロン間の情報共有や連携により、活動の充実化を目指すための取組み	【サロン連絡会の開催予定】 ・6地区で各2回程度実施予定			
地域包括ケア推進課	地域福祉コーディネーターを配置し、人材発掘、育成、支援を通して地域で高齢者を支える地域活動、就労、ボランティア活動の促進を図る。	・市福祉総務課の地域福祉担当を市域レベルの地域福祉コーディネーターとし、社会福祉協議会の地域活動専門員とともに、地域における地域福祉活動の推進を図った。	・社会福祉協議会に圏域レベルの地域福祉コーディネーターを2名配置。 ・居場所や認知症カフェなど具体的な活動の場で活躍を期待する人材育成、地域福祉活動の開発、既存の活動の充実化など、さまざまな取り組みや支援を行った。	・圏域レベルの地域福祉コーディネーターを2名増員し、4名体制とし、地区分担を行い、地区課題や不足する地域資源の状況を踏まえ、地域特性に応じた地域福祉活動を推進する。 ・人材の発掘、育成に向け、さまざまな人材養成講座や団塊シニアの男性の地域デビューに資する取り組みを市民団体と協働開催する。			
介護保険課	ボランティア活動の促進について、新たな形態での活動(ワーカーなど)として対価などを想定した活動や新たな補助制度について検討する。	・介護ボランティアポイント制度に先駆的導入市の視察を行った。  ※介護ボランティアポイント制度とは介護施設等で支援ボランティアとして活動される方を対象に、ポイントを付与し、貯めたポイントを商品券等で還元する制度。	・介護ボランティア制度について、関係各課と協議を進め、制度の概要を定め、「こまき支え合いいきいきポイント制度」として平成29年度当初予算に費用を計上した。	「こまき支え合いいきいきポイント制度」について、関係各課と協議を進め、平成29年10月を目途に制度を開始する。	A	「こまき支え合いいきいきポイント制度」として予算計上することができたため。	「こまき支え合いいきいきポイント制度」の周知を行いながら、利用者とボランティア(就労)の機会の充実を図っていく。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

### 基本目標Ⅱ 自立を支え合う地域づくり

#### 1 地域包括支援センター機能の強化

##### (1) 地域包括支援センターの周知（第6次計画 P79）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	区長や民生委員をはじめとした地域、事業者などと連携し、ネットワークを活かして地域に入り込んだ活動の充実を図る。	・地域包括支援センター職員が各圏域における民生委員の役員会等の会合に出席し関係の構築に努めた。また祭り等のイベント会場に赴き地域包括支援センターのPRを行った。	・各地区の区長会、民生委員の会議に出席し、連携強化に努めた。 ・介護展、祭り等のイベントでの周知や区に対する回覧などを行う中で、地域包括支援センターのPRを行った。	・地域福祉活動の充実に向け、区長、民生委員、地区のボランティアとの連携強化に努めるとともに、さまざまな機会、催しを通して地域包括支援センターのPRを行う。  ・小牧市高齢者保健福祉に関する調査における「地域包括支援センターの認知度」 平成28年 知っている 34.1% 知らない 58.9%	B	65歳以上の高齢者向けに実施した小牧市高齢者保健福祉に関する調査における「地域包括支援センターの認知度」の結果、前回調査より、認知度が下がった。 対象者が65歳以上であり、高齢者の相談窓口として更なる周知が必要であると考えます。	区長会、民生委員の会議、地域包括支援センターが主催する催しのほか、地域の居場所や老人会などに出向くこと(アウトリーチ)を重点的に実施するよう働きかけることにより、顔の見える関係性を経て、地域福祉活動の充実化を目指す。 また、医療・介護の関係者の協力を得て、高齢者等が良く利用する病院や薬局等で周知するなど、認知度を上げ、身近な相談機関となることを目指す。

##### (2) 地域包括支援センター機能の充実（第6次計画 P80）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	役割に応じた人材配置を強化して相談しやすい環境を整え、同時に、多職種連携、協働によりこれまで以上に身近な存在として寄り添った包括的・継続的な支援ができるようにする。	地域の医療・介護関係者の、顔の見える関係づくりをはじめ、関係機関と連携をとりながら、高齢者に関する各種相談への対応、介護予防事業の紹介など様々な支援を行った。  【総合相談支援業務】 小牧包括 2,894件 味岡包括 1,394件 篠岡包括 688件 北里包括 1,241件  【権利擁護業務】 小牧包括 139件 味岡包括 59件 篠岡包括 131件 北里包括 41件  【包括的・継続的ケアマネジメント業務】 小牧包括 139件 味岡包括 120件 篠岡包括 98件 北里包括 146件	平成27年度に引き続き、地域の医療・介護関係者の、顔の見える関係づくりをはじめ、関係機関と連携をとりながら、高齢者に関する各種相談への対応、介護予防事業の紹介など様々な支援を行った。  【総合相談支援業務】( )内対前年比 小牧包括 3,267件(113%) 味岡包括 2,593件(186%) 篠岡包括 617件(90%) 北里包括 1,285件(104%)  【権利擁護業務】( )内対前年比 小牧包括 83件(60%) 味岡包括 136件(230%) 篠岡包括 73件(56%) 北里包括 67件(163%)  【包括的・継続的ケアマネジメント業務】 小牧包括 152件(109%) 味岡包括 272件(227%) 篠岡包括 74件(76%) 北里包括 171件(117%)	各地域の高齢化率、地域における課題等を踏まえ、その地域にあった人員体制を整えるように努めるとともに、地域の実情に沿った事業計画を策定し、関係者と連携し、支援を行う。	B	地域包括支援センターが、地域の高齢者にとって、身近な存在となるよう多職種連携に向けた取組みは推進できたが、先述のとおり、アンケート調査において、認知度が低いという結果となった。 また、人材についても、年度途中で職員が退職、交代するなど、地域住民にとって、相談しやすい環境とは言えない状況となった。	高齢者数の増加に伴う相談件数の増加と内容の多様化など地域包括支援センターの業務量の増加が見込まれる。そのため、業務量等に応じて、人材が十分配置できるよう環境整備に努める。 複雑化する地域課題等に対応するため、より強固な多職種連携が必要となるため、市として、連携強化に向けた取組みを推進する。 地域包括支援センターの立地特性から、相談しづらい環境にあるセンターもあり、サテライト型の設置、アウトリーチの実施などを含め、相談体制の機能強化を図る。
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	高齢者の介護予防、自立支援に向けた効果的なサービスのマネジメントが可能となるよう、地域の資源開発、人材育成、ネットワーク構築などへの支援に取り組むための体制の整備を図る。	【地域ケア会議の開催状況】 ・研修会 1回 ・各圏域の地域ケア会議 小牧包括 9回(3圏域各3回) 味岡包括 3回、事業所交流会1回 篠岡包括 3回 北里包括 3回	【地域ケア会議の開催状況】 ・各圏域の地域ケア会議 小牧包括 9回(3圏域各3回) 味岡包括 3回、事業所交流会1回 篠岡包括 3回 北里包括 3回	【地域ケア会議の開催状況】 ・各圏域の地域ケア会議予定 南部包括 3回程度 小牧包括 6回程度(2圏域各3回) 味岡包括 事業所交流会とふくし座談会 篠岡包括 3回程度 北里包括 ふくし座談会  ※味岡、北里については、H27,28結果を踏まえ、地域資源の開発を行う予定。	B	専門職と地域住民との間で、焦点が共有できないなか、地域ケア会議を開催してきており、地域資源の開発や人材育成など具体的な議論を深めることが出来なかった。	専門職が、インフォーマルな活動を知る機会として、専門職と地域住民のネットワーク化を推進する。 専門職同士の連携を強化し、地域における生活支援や介護予防の充実に向けた取組みを“丸ごと”支援できる体制を整備する。(専門職連携会議の設置)
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	より身近な地域での支援を可能とするため、小牧南部圏域において、新たな地域包括支援センターの設置を目指す。	・小牧南部圏域での地域包括支援センター開設に向けた法人との打合せを1回行った。	・平成29年度4月からの移行に向け、指定事務を進めるとともに、切れ目のない支援体制を構築するため、小牧包括と小牧南部包括の連絡調整を行った。	・平成29年4月、小牧南部地域包括支援センターケアタウン小牧が開設。	A	計画期間内に、予定どおり、小牧南部圏域に地域包括支援センターを設置できた。	小牧西部圏域内にのみ地域包括支援センターが設置できていない状況であり、委託可能な法人の有無も含め、検討を行う。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

## 2 支え合う地域づくり

## (1) 地域包括ケアシステムの充実（第6次計画 P82）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	医療、福祉、介護など多職種、他制度の連携を強化し、地元住民とともにチームで高齢者を見守り、支え合う体制を充実させる。	【個別ケア会議開催状況】 小牧包括 13回 味岡包括 5回 篠岡包括 19回 北里包括 5回	【個別ケア会議開催状況】 小牧包括 15回 味岡包括 11回 篠岡包括 18回 北里包括 7回	・個別ケースに基づき、関係者間の役割分担のもと、個別支援を行う“個別ケア会議”と、個別ケースから見えてくる地域課題の解決に向けた地域づくり(地域福祉活動づくり)に重きを置いた“地域ケア会議”を継続的に開催する。	B	個別支援を行うための会議と、地域づくりを行うための会議の整理や関係者間での共有が不十分であり、精査する必要がある。	個別ケア会議を主催する地域包括支援センターと、医療、介護の専門職、地域住民が、それぞれの強みを活かし、連携して、地域を支える体制を構築するため、個別ケア会議、地域ケア会議を継続的に開催する。
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	地域ケア会議を推進し、支え合いのこころの醸成、地域福祉活動の参加への働きかけを支援する。						
地域包括ケア推進課	行政区などと連携、協議しながら地域福祉モデルの構築を進める。	・地域協議会の設立の動きがない、9つの小学校区において座談会を開催し、ネットワークの必要性について意識の高揚を図った。	・市内全16小学校区単位で、ふくし座談会を開催し、ネットワークの必要性について意識の高揚を図った。 ・ふくし座談会で寄せられた意見は、第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定の参考として活用した。	・地域協議会が設立されたところは、役員の方と調整し、地域福祉に関する取組みを推進する。 ・今後、地域協議会の設立を目指す小学校区では、具体的な取組みの実践に向けたふくし座談会を地域福祉コーディネーターが開催する。(小学校区単位で各2回開催予定)	B	より充実した地域福祉活動を展開するため、自治会での取組みを通して横のつながりを意識するための場、“ふくし座談会”は開催してきているが、その後の活動までの発展に至っていない。	第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画に基づき、引き続き、“ふくし座談会”を開催し、この“ふくし座談会”の参加者を中心に、「ご近所福祉ネットワーク」を構築し、地域福祉活動の充実を図る。

## (2) 地域包括ケアシステムを支える人材の確保及び資質の向上（第6次計画 P83）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由(特に遅れているその理由や原因などは記載ください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課	地域福祉コーディネーターが、地域においてコーディネート役を担う人材を発掘、支援、育成し、地域で見守り、支え合いを担う人材の確保に努める。	・市域レベルに1人(福祉総務課担当)配置し、圏域における地域ケア会議にオブザーバーとして参加した。 ・平成28年度以降の圏域レベルの配置方針を決定した。	・配置方針に沿って、社会福祉協議会に圏域レベルの地域福祉コーディネーターを2名配置。 ・居場所や認知症カフェなど具体的な活動の場で活躍を期待する人材育成、地域福祉活動の開発、既存の活動の充実化など、さまざまな取り組みや支援を行った。	・圏域レベルの地域福祉コーディネーターを2名増員し、4名体制とし、地区分担を行い、地区課題や不足する地域資源の状況を踏まえ、地域特性に応じた地域福祉活動を推進する。 ・人材の発掘、育成に向け、さまざまな人材養成講座や団塊シニアの男性の地域デビューに資する取り組みを市民団体と協働開催する。	C	第2次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画では、地域福祉活動の進行役として、“地域福祉推進員”を配置することとしていたが、ふくし座談会などを通して、配置ではなく、地域における活動の実践者こそが重要であるとの考えにいたり、第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画では、“福祉に関心のある方”と見直しを図った。 地域福祉の荷い手の確保に向けた人材育成に向けた取組みや、地域福祉活動の支援については、着実に実施できている。	地域福祉コーディネーターについては、福祉圏域ごとに1名、配置する。 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画に基づき、ふくし座談会やボランティアセンターなどの連携による人材発掘や、具体的な地域課題に対応できる人材育成に向け、勉強会や養成講座などを行う。
地域包括ケア推進課	既存の事業所やボランティア団体に加え、高齢者自身が支える側として新たに参画できるよう、地域での“できること”“してほしいこと”を調整する。	・地域協議会の設立の動きがない、9つの小学校区において座談会を開催した。 ・座談会のテーマを「他地区の活動を知る」とし、各地域における活動や地域資源について情報を共有し、ネットワークの必要性についても共有した。	・市内全16小学校区単位で、ふくし座談会を開催し、「認知症」を切り口として、地域福祉の充実に向け、必要な活動や、その実施のために必要な支援等について共有した。 ※前述のとおり、ふくし座談会で寄せられた意見等については、第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画に反映	・これまでのふくし座談会等での意見を踏まえ、その地域の課題の解決に向け、具体的な取組みについて検討するため、ふくし座談会を開催する。(小学校区単位で各2回開催予定)			地域福祉コーディネーターが、地域包括支援センターと連携し、その地域における優先して解決すべき課題の解決に向けたふくし座談会を開催する。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

(3)地域における情報提供や連携強化の場の設置 (第6次計画 P83)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
長寿・障がい福祉課	電気、ガス、水道など事業者などと連携し、重層的に見守る体制を構築する。	見守りに関する協定を締結した事業者数 83事業所  異変と思われたことによる事業者からの通報件数:1件	見守りに関する協定を締結した事業者数 86事業所  異変と思われたことによる事業者からの通報件数:1件	引き続き見守りを担っていただく事業者を募集し、事業活動の範囲内で可能な見守りを お願いし、重層的な見守り体制を構築する。	B	見守りを行う事業者数は、前年度に比べ微増であったため、更なる事業者数を増やし重層的な見守り体制を構築する必要がある。	引き続き協力していただける事業者を増やし、重層的な見守り体制を構築する。
福祉総務課	災害発生に備え、関係機関と情報共有する体制を整備するとともに、災害時要支援者台帳の整備を進める。	【災害時避難行動要支援者台帳の状況】 ・台帳登録者数 2,327人(45.3%) ・年2回台帳を更新、配布	【災害時避難行動要支援者台帳の状況】 名簿登録者数 5,310人 うち台帳登録者数 2,395人(45.1%)  ・年2回台帳を更新し、第3者(区長、民生委員、自主防災組織、社協、警察)へ台帳を配布	【災害時避難行動要支援者台帳】 台帳とともに「台帳活用マニュアル」「地域見守りネットワーク構築マニュアル」を活用し、消防、危機管理課、社協と連携し、地域において具体的な活動に向けた支援を行い、登録率の向上を目指す。	B	民生委員による見守り活動や一部の地域でのマップ作りなど、台帳を活用した活動が展開されているが、専門機関を含め多くの地域では、要支援者への具体的な支援の内容・方法を、検討中又は未検討の状態にある。台帳に登録することによる効果・利点が、はっきりとしないことから、積極的な台帳登録に繋がっていないと考える。	引き続き適正な名簿・台帳登録を行う。 台帳及びその活用方法について、検討及び啓発を行い、地域での台帳を活用した具体的な活動を支援する。

(4)認知症施策の充実 (第6次計画 P84)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	認知症ケアパスを広く周知し、その普及、活用を図ることにより、安心して生活できる支援の充実を図る。	—	・認知症地域支援推進員とともに、協議し、認知症ケアパスを作成	・認知症地域支援推進員が、事業者や住民の方に認知症への理解を深めてもらうため、認知症ケアパスの活用について広報や説明会にて周知を行う。	B	平成28年度は、認知症ケアパスの作成にとどまっていまい、普及啓発が出来なかった。	小牧市の認知症ケアパスは、認知症の進行状況に応じて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受けることができるかをまとめるだけでなく、認知症の理解を深める資料としても活用出来る構成となっており、認知症地域支援推進員が計画的に事業者や住民に対して、普及啓発を行う。
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	地域包括支援センターに認知症地域支援推進員や認知症初期集中支援チームを設置し、認知症ケアの充実を図る。	【認知症地域支援推進員】 各地域包括支援センターに1人(計4人)配置  【認知症初期集中支援チーム】 既に設置している自治体等の状況を確認し、本市における支援チームの設置のあり方、その活動内容について検討を行った。	【認知症地域支援推進員】 ・各地域包括支援センターに専任の認知症地域支援推進員を配置した。 ・認知症ケアパスを作成  【認知症初期集中支援チーム】 支援チームのあり方について、外部の有識者で検討するため、認知症初期集中支援チーム検討委員会を発足した ※H28年度:委員会は未開催 認知症疾患医療センターと認知症初期集中支援チームの設置方法について協議を行った。	【認知症地域支援推進員】 ・新たに南部地域包括支援センターに推進員を1名設置 ・認知症ケアパスを活用し、地域住民の認知症に対する理解を深める  【認知症初期集中支援チーム】 ・認知症初期集中支援チーム検討委員会での議論を経て、平成30年度4月の設置を目指す。 ・検討委員会開催予定回数 2回	B	【認知症地域支援推進員】 地域包括支援センターごとに計画的に配置できているが、認知症に関する地域づくりや医療機関との連携が進んでいない。  【認知症初期集中支援チーム】 市として、チームの設置方針の遅れからチームを設置することが出来なかった。	認知症地域支援推進員が期待する役割などを明確にし、医療機関、介護事業者などとの連携強化を図る。 認知症初期集中支援チームについては、チーム内の動きとして、医師と専門職の連携のあり方、外部との動きとして、医療機関、介護事業者などとの連携のあり方について整理し、認知症ケアの充実化を図る。 国が示す認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)と本市の取組みを改めて整理し、充実が必要な施策を展開する。(愛知県と連携した若年性認知症施策の強化など)
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	認知症サポーターの養成やフォーラムの開催などを実施し、支援の輪やネットワークの充実を図るとともに、近隣市町とも連携しネットワークの拡充に努める。	【認知症サポーター養成講座の開催状況】 ・開催回数 48回 ・受講者数 2,487人  【認知症フォーラムの状況】 ・講演及び運動「頭と体を動かして認知症予防 コグニサイズを知ろう」 ・参加者数 約70人  【認知症見守りネットワーク会員数】 ・会員数 1,331人(累計)	【認知症サポーター養成講座の開催状況】 ・開催回数 43回 ・受講者数 2,224人  【認知症サポーターステップアップ講座】 ・地域における認知症支援の荷い手として期待する人材育成の向け、認知症サポーターのステップアップ講座を開催し、53名が参加した。  【認知症フォーラムの状況】 ・あさひが丘ホスピタル主催「認知症についての市民シンポジウム」を小牧市で開催。基調講演と「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、シンポジウムを実施。 ・参加者数 278人  【認知症見守りネットワーク会員数】 ・会員数 1,318人 (メール会員893人FAX会員425人) ※FAX会員が減少	【認知症サポーター養成講座の開催】 ・認知症キャラバンメイトにより、認知症サポーター養成講座を開催する。 ・児童、生徒向けに対する講座も引き続き開催する。  【認知症サポーターステップアップ講座】 ・昨年度に引き続き、11月、12月に認知症サポーターのステップアップ講座を開催し、地域における認知症支援の荷い手を養成する。  【認知症フォーラム】 ・NPO法人認知症予防ネットの方を講師として招き、認知症予防をテーマに開催。 ・フォーラム開催後、認知症予防の荷い手育成講座をセットで実施。  【認知症見守りネットワーク】 ・会員数の増加に向けて、介護展・市民まつりなど各種イベントなどを通して、普及啓発を行う。	A	認知症の理解を深めるため、順調に、サポーター養成講座を開催できている。 また、毎年度、テーマを変える中で、認知症に対する普及啓発を開催できており、平成29年度は、認知症予防について、地域の活動につながる形態で開催できた。 ネットワークについては、FAX会員が減少してきているが、各種イベントなどを通して会員増に向けた普及啓発ができた。	小・中学校に加え、市内の高校への認知症サポーター養成講座を行い、学校教育における認知症の人を含んだ高齢者に対する理解を得る。 認知症サポーター養成講座、また、その受講生を対象としたステップアップ講座を行い、認知症に対する理解を深めるとともに、更なる増加が見込まれる認知症の方や家族を支えるための地域づくりを推進する。 認知症フォーラムについては、後述する在宅医療・介護連携に関する市民講演会などを含め整理し、小牧市の地域包括ケアシステムの構築に向けた普及啓発事業として継続開催する。

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

## 3 生活支援の充実 (1) 高齢者一人ひとりの特性に合わせた生活支援の推進 (第6次計画 P87)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
長寿・障がい福祉課	新しい総合事業の開始に合わせて、既存の福祉サービスについて、これからの公的支援にふさわしい内容となるよう検討をすすめる、他のサービスと連携する中できめ細やかな提供体制が図れるようにする。	(家事援助サービスの状況) ・利用者数 8人 ・利用回数 304回  (デイサービスの状況) ・利用者数 11人 ・利用回数 353回	(家事援助サービスの状況) ・利用者数 10人 ・利用回数 404回  (デイサービスの状況) ・利用者数 13人 ・利用回数 460回  平成29年度より新しい総合事業を開始することに伴い、類似サービスである家事援助サービスとデイサービスを平成28年度で廃止することとした。	-	A	従来より虚弱高齢者を対象に実施してきた福祉サービスは、新しい総合事業の目的と同じであることから、平成29年度の総合事業の開始に合わせて移行することとし、家事援助サービス及びデイサービスを平成28年度を持って廃止することとした。	支援を必要とする高齢者が、介護保険制度の対象とならない場合であっても、孤立しないように、適時状況に応じた支援について、調査研究を継続する。
長寿・障がい福祉課	自らの権利を守ることが困難な方の権利擁護支援のあり方を検討し、検討結果に基づいた事業の実施に努める。	(成年後見制度研修の状況) ・開催回数 1回 ・日時 平成28年1月27日 ・場所 小牧市役所東庁舎5階大会議室 ・参加者数 87人	地域包括支援センターと連携し、介護サービス事業所(在宅の事業所:36事業所、入所施設:18事業所)に対し、高齢者虐待に関するアンケートを実施した。  権利擁護支援センターの設置に向け、近隣市町で勉強会を4回開催した結果、センターの共同設置に向けて賛同した2市2町(小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町)により基本合意事項の合意が得られた。	平成28年度に実施した介護サービス事業者への高齢者虐待に関するアンケート結果より、介護サービス事業所(在宅系事業所、入所施設)に対し、研修会を開催する。  権利擁護支援センターの設置に向け、2市2町(小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町)でセンター設立調整会議を設置し、基本合意事項を具体化する。	A	権利擁護支援センターの共同設置に向け、2市2町で基本合意事項の合意が得られた。	市域を超えた広域的な権利擁護支援センターを設置し、権利擁護支援を進める。 市民や関係者等に向け、権利擁護に関する研修や勉強会を開催し、周知を図り、認識と関心を高めてもらう。

## (2) ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯への支援 (第6次計画 P88)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
長寿・障がい福祉課	ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の方が、居宅での閉じこもりや地域で孤立することがないよう、地域での見守り、支え合いが可能となる環境を醸成する。	(ひとり暮らし高齢者交流会の状況) ・開催回数 1回 ・参加者数 415名	(ひとり暮らし高齢者交流会の状況) ・開催回数 1回 ・参加者数 386名	引き続きひとり暮らし高齢者交流会を11月に1回開催し、交流の場を持つ。 平成29年度より一般介護予防事業の介護予防把握事業として、簡易版チェックリストを作成し、要介護(支援)認定を受けていない65歳以上の独居又は高齢者のみ世帯の方に送付し、返信の無かった方のうち、把握が必要と思われる方は、地域包括支援センターの職員が訪問し、閉じこもり、孤立することがないように状況把握を行う。	B	ひとり暮らし高齢者交流会を開催したが、参加者が減少し、年1回のみ開催であるため、地域での見守り、支え合いの体制構築にいたっていない。	ひとり暮らし交流会のみを手段として捉えず、地域で見守り、支え合いの手段が構築されるよう、効果的な手段の研究を進める。 地域包括支援センターのアウトリーチ機能を強化し、地域で孤立する、支援が必要な高齢者の状況把握や、ニーズの掘り起こしに努める。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

## (3) 家族介護者への支援 (第6次計画 P89)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課	要介護者を家族だけで抱え込むことがないよう、サービスの情報発信、情報提供に努め、地域包括支援センターがこれまで以上に寄り添った支援が推進できるよう機能を強化する。	【総合相談支援業務】 小牧包括 2,894件 味岡包括 1,394件 篠岡包括 688件 北里包括 1,241件	【総合相談支援業務】( )内対前年比 小牧包括 3,267件(113%) 味岡包括 2,593件(186%) 篠岡包括 617件(90%) 北里包括 1,285件(104%)	引き続き地域包括支援センターの窓口だけでなく、身近な場所として老人福祉センター等での出張相談を実施する。 また、地域包括支援センターの広報チラシ等を作成し、相談窓口としてより多くの方に知ってもらう。	B	地域包括支援センターへの相談件数は増えているものの、先述のとおり地域包括支援センターの認知度は低いため、寄り添った支援ができていないと考えられる。	地域包括支援センターの職員が、各地区で行われる催しや、地区のサロンなどにも積極的に出向いて、今まで以上に住民と関わる機会を設け、より身近な場所での支援の推進に努める。
長寿・障がい福祉課	介護についての知識や技術を習得する講座を開催し、家族介護者の負担が軽減される体制を整える。	【ハートフルケアセミナーの状況】 ・開催回数 3回(6日) ・参加者数 25人	【ハートフルケアセミナーの状況】 ・開催回数 1回(2日) ・参加者数 12人	ハートフルケアセミナーを1回(2日)開催し、介護者の介護知識や技術向上に努める。	B	ハートフルケアセミナーを開催しているが、参加者が少なく、介護者支援が進んでいない。	今後、在宅介護の増加が予想されることから、介護の知識や技術に関する講座は必要である。より多くの方が参加してもらえるよう、周知方法等を見直し、引き続き、家族介護者の支援を行う。
地域包括ケア推進課	介護する家族の負担軽減のため、家族が交流し、情報交換やリフレッシュできる場の確保に努める。	【認知症家族交流会の状況】 ※4地域包括支援センター合計 ・開催回数 29回 ・受講者数 155人	【認知症家族交流会の状況】 ※4地域包括支援センター合計 ・開催回数 27回 ・受講者数 237人	【認知症家族交流会】 ※5地域包括支援センター合計 ・開催予定回数 22回  実施回数予定は、減少しているが、今後は、各圏域に設置を目指す認知症カフェにおいて交流会機能を持たせる予定である。	B	認知症の方やその家族の方の負担軽減や交流のため、認知症家族交流会は、定期的に開催できているが、参加者数が伸び悩んでいる。	認知症の方、その家族が望む家族交流会のあり方を検討したうえで、交流会を継続的に開催する。 また、市内各地に認知症カフェの設置を進め、認知症の方、その家族も含め、地域の住民が気軽に集える居場所づくりを推進する。

## 4 高齢者向け住まいの整備

## (1) 高齢者に配慮した住まい環境の整備の促進 (第6次計画 P90)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	一日でも長く安心して過ごせるよう、住宅改修に対する支援を実施するなど、バリアフリー化を促進する。	【高齢者住宅改修支援事業の状況】 ・5件 459,810円	【高齢者住宅改修支援事業の状況】 ・11件 1,228,328円	【高齢者住宅改修支援事業】 ・9件 1,050,000円(予定)	A	介護保険の住宅改修を希望し、窓口に来られる利用者や事業者に対して高齢者住宅改修支援事業の周知をした。	住み慣れた自宅において、一日でも長く安心して過ごせるよう、住宅改修に対する支援を今後も実施していくこととし、窓口や「高齢者福祉ガイドブック」による周知だけでなく、要介護認定の結果を送付する際、認定の有無に関わらずお知らせをするとともに、地域包括支援センターなど関係事業所に対しても周知を行っていく。
介護保険課	住宅改修がより効果的になるよう、作業療法士などの専門職などによるリフォームヘルパーを必要に応じて派遣する。	【リフォームヘルパーの利用状況】 ・57件(内作業療法士に依頼したのは2件)	【リフォームヘルパーの利用状況】 ・45件(内作業療法士に依頼したのは1件)	【リフォームヘルパーの利用】 ・50件(内作業療法士に依頼するのは4件) (予定)	B	リフォームヘルパーの依頼は多数あったが専門的な意見を必要とする依頼が少なかった。	住宅改修がより効果的になるよう、今後もリフォームヘルパーの派遣を行うが、より専門的な意見を求められた際には作業療法士などの専門職を派遣する。

## (2) 地域のニーズに応じて適切に供給される住宅の確保 (第6次計画 P91)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	サービス付高齢者向け住宅の整備の促進を図るなど、高齢者向けの住宅の確保、把握に努めるとともに、入居者の保護を目的とした公的機関の目が行き届くような体制が確保できるよう有料老人ホームの届出促進を図る。	・立入検査した有料老人ホーム 2件	・立入検査した有料老人ホーム 0件 地域包括支援センターや関係課から情報提供を受けた未届け有料老人ホーム、または、それに準ずる施設について、消防署や県等に情報提供を行った。	情報提供があれば随時関係機関と連携し、必要に応じて、立入検査を行う。	A	県からの情報提供に基づき立ち入り検査を行うが、平成28年度は県からの情報提供がなかった。しかし、消防署や県等に情報提供を行った施設が、有料老人ホームの届出の提出につなげることが出来た。	地域包括支援センターや関係課と連携を図り、施設の情報収集に努めるとともに、県とも連携を密に取りながら指導を進めていく。
市民安全課	空き家を高齢者の住まい、居場所へ活用できる仕組みを検討する。	・把握した空き家の数 26戸	「小牧市空家等対策計画」策定のための実態調査により、判定した空家等の数 363戸	関係各課連携のうえ、「小牧市空家等対策計画」に掲げた取組事項から推進する事業の検討を行う予定	B	空き家に関する計画は策定したものの、高齢者の住まいや居場所への活用方法など具体的な検討は出来ていない。	他自治体では、空き家を活用した居場所づくりが推進されており、こうした取組みを調査する中で、本市における空き家活用のあり方を検討する。

## 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

### 5 医療との連携

#### (1) 在宅医療・介護サービス提供体制の強化（第6次計画 P92）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れているその理由や原因などは記載ください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の必要性について普及啓発を行う。	・㈱東京法規出版が発行している冊子「かかりつけ医のススメ」に、「小牧市」とネーム入れを行い、作成し、医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院、公共施設、介護保険サービス事業者等に配布した。 ・在宅医療サポートセンターが、冊子「かかりつけ医・歯科医・薬剤師をもちましよう」により普及啓発を行った。	・市民講演会等で冊子を配布し、普及啓発を行った。	・市広報などを活用し、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の必要性について、広く普及啓発を行う。	B	啓発のための方法が冊子配布にとどまり、かかりつけ医等に関する普及啓発が進んでいるか分かりにくい。	いくつになっても住み慣れた自宅で必要な医療やサービスを受けることができるように、日ごろから、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を持つことの大切さを周知し、啓発していく。
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	医療や介護が必要になっても、住み慣れた自宅での生活が継続できるよう、医師会などと連携し、在宅医療体制の整備を図る。	【訪問診療導入研修会の状況】 ・開催回数 2回 ・参加者数 47人  ・平成27年6月に小牧第一病院内に在宅医療サポートセンターを設置した。	【訪問診療導入研修会の状況】 ・開催回数 6回 ・参加者数 190人	【訪問診療導入研修会】 ・開催予定回数 6回  ・平成30年度以降の在宅医療サポートセンターのあり方について、関係者と協議し、決定する。	C	平成27年度に設置された在宅医療サポートセンターが主体となって、在宅医療・介護に関するテーマに沿って、定期的に研修会を実施することができた。しかし、在宅医療体制の整備については、なかなか進んでいない。	在宅医療サポートセンターを中心に、医師会等と連携しながら在宅医療体制の整備を図る。 在宅医療を実施するにあたって必要な知識を習得できるような研修を随時、開催し、在宅医療が身近なものになるよう働きかける。

#### (2) 在宅医療・介護サービス提供者の連携体制の構築（第6次計画 P93）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	在宅医療にあたる医師だけでなく、歯科医、薬剤師、看護師などのほか、介護サービスも含めた多職種が連携して切れ目なくサービスが提供される体制の整備を支援する。	【在宅医療・介護連携推進協議会の状況】 ・開催回数 3回	【在宅医療・介護連携推進協議会の状況】 ・開催回数 3回  【ICTの導入】 ・医療、介護関係者の連携強化に向け、情報共有を効率的に実施するため、ICT(情報通信技術)の導入を目指し検討を行った。	【在宅医療・介護連携推進協議会】 ・開催予定回数 3回  【ICTの導入】 ・関係者と協議を進め、平成29年10月を目処にICTを導入する。	B	市の課題を抽出し、解決に向けて、各関係機関が協力、情報共有を行いながら、在宅医療・介護連携の推進に関する事項を検討することができた。しかし、機関によっては進捗状況が異なり、全体としてはあまり整備が進んでいない。	在宅医療や在宅介護を担う機関が連携して、サービスを提供できるよう支援し、医療や介護が必要となっても安心して自宅で過ごすことができるような体制を整備する。 ・在宅医療・介護連携推進協議会の開催 ・ICTの活用
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	関係団体と連携を推進するために必要な研修や多職種合同の研修など、在宅で支援が必要な方を多職種で支えられる体制づくりを支援する。	【医師とケアマネの座談会の状況】 ・開催回数 1回 ・参加者数 87人  【多職種連携事例検討会の状況】 ・開催回数 2回 ・参加者数 約290人	【医師とケアマネの座談会の状況】 ・開催回数 1回 ・参加者数 58人 ・テーマ「認知症の人が地域で暮らしていくためには」  【在宅医療・介護連携研修会の状況】 ・開催回数 3回 ・参加者数 約270人	【医師とケアマネの座談会】 ・開催予定回数 1回  【在宅医療・介護連携研修会】 ・開催予定回数 2回  医療・介護に携わる専門職同士が顔の見える関係性づくりと、実践に向けた体制づくりのため、継続開催する。	B	研修を定期的開催することで、多職種間で顔の見える関係を構築することができている。しかし、他の機関が主催する研修会などと開催日が重なり、参加者が少なくなってしまうなど、課題も残った。	在宅医療サポートセンターを中心に、在宅医療・在宅介護を行う中で出てくる課題を抽出し、多職種が連携して支援ができるような研修を開催する。 研修を通じて、多職種が顔の見える関係を築け、在宅医療・在宅介護を円滑に進めることができるように支援する。

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

(3) 在宅医療・介護の環境づくりの支援 (第6次計画 P94)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
地域包括ケア推進課 長寿・障がい福祉課	在宅でも安心して医療を受けること の理解を深めてもらうため、家族等 を対象に情報提供をはじめとした在宅 医療・介護の環境づくりへの支援を行 う。	<p>【市民講演会の開催】 平成28年2月28日 ・開催回数 1回 ・参加者数 約150人 ◆講話 「小牧の在宅医療の現状と新しい仕組み」 小牧市の現在の在宅医療の体制と、今年度 から進められている 新しい取り組みについてお伝えします。 ・小牧市医師会在宅医療推進委員会担当理 事 医療法人胡蝶会サンエイクリニック院長 ・小牧市医師会在宅医療サポートセンターコ ンダクター ◆男性の現役介護者による介護体験談 男性も介護者になることがあります。私はこ うやっている！など、</p> <p>【市民アンケート】 ・対象者 40歳以上の市民2,000人 ・回収率 50.4%</p> <p>【市民への情報発信】 ・広報こまき 2回 ・ケーブルテレビ 1回</p> <p>【わた史ノート】 ・これまでの自分の歴史や思いを記録するこ とで、自分らしさを再発見し、家族や周囲の 人など支えてくれる人たちが「あなたらしさ」 を理解する助けとなることを目的として、「わ た史ノート」を作成 ・活用について広く周知を行った。</p>	<p>【市民講演会の開催】 ①平成28年6月17日 ・参加者数 約450人(寿学園を対象) テーマ:「市内の在宅医療・介護の現状と不 安のない将来のために」 ・小牧市医師会在宅医療推進委員会担当理 事 医療法人胡蝶会サンエイクリニック浅井院長 ・小牧市在宅医療サポートセンター:磯村氏</p> <p>②平成29年2月19日 ・参加者数 116人 テーマ:「医療がおうちにやってくる」</p> <p>◆医師や看護師、薬剤師など、医療の専門 職がそれぞれの役割やできることを寸劇を 交えて分かりやすく説明</p> <p>【市民アンケート】 ・対象者 40歳以上の市民2,000人 ・回収率 47.6%</p> <p>【市民への情報発信】 ・広報こまき 2回</p> <p>【わた史ノート】 ・地域住民と接する機会の多い、民生・児童 委員に対して、わた史ノート作成の経緯など を説明。 ・平成28年12月6日付け中日新聞に掲載、広 く市民に周知。(広報にも掲載)</p>	<p>【市民講演会の開催】 ・在宅医療・介護の連携に向け、市民の理 解、認知度を高めることを目的として、市民 講演会を開催する。(年1回開催予定)</p> <p>【市民アンケート】 ・対象者 40歳以上の市民2,000人 ※経年変化を見るため、今年度も実施</p> <p>【市民への情報発信】 ・広報こまき、市HPなどを活用し、情報を発 信する。</p> <p>【わた史ノート】 ・市の組織改正、南部地区に地域包括支援 センターが設置されたことを踏まえ、一部改 正を行う。併せて、これまでの普及啓発を振 り返り、必要な場合は修正し、増刷する。 ・わた史ノートの作成の意図をしっかりと理解 したうえで、有効に活用してもらえるよう普及 啓発するとともに、活用方法についても検討 を行う。</p>	B	<p>2月の市民講演会については、寸劇を交え、市民に も分かりやすく在宅医療の流れを説明することができ た。 しかし、参加者が少なく、普及についての効果が不明 である。</p> <p>わた史ノートについては、身近な高齢者相談の窓口 となる民生・児童委員連絡会の折に、わた史ノートの 趣旨や書き方について講義を行い、活用方法やその 意義について周知を行った。 わた史ノートの意義については概ね理解されたが、 積極的な活用までには至っておらず、今後も啓発を 継続していく必要がある。</p>	<p>市民講演会については、前述の認知症フォーラムな どを含め整理し、小牧市の地域包括ケアシステムの 構築に向けた普及啓発事業として継続開催する。</p> <p>わた史ノートを通して、元気なうちから人生の終末 期について考える機会を作ることができるよう、わた 史ノートの意義や活用方法等について普及・啓発の 仕方を検討し、実施していく。</p>
長寿・障がい福祉課 地域包括ケア推進課	在宅医療についての不安や疑問 等が解消され、円滑に在宅医療 に移行できるよう、積極的な情報 発信や相談窓口の整備を図る。	<p>【在宅医療サポートセンターの状況】 ・相談件数 17件</p>	<p>【在宅医療サポートセンターの状況】 ・相談件数 27件</p>	<p>【在宅医療サポートセンター】 ・引き続き、小牧市医師会が小牧第一病院 内の在宅医療サポートセンターの運営に対 し助成を行い、在宅医療に関する相談業務 を行うとともに、在宅医療に関する研修や啓 発活動を行う。</p>	B	<p>在宅医療サポートセンターにおいて研修や窓口相 談、在宅医療の普及啓発を行っているが、相談件数 があまり増えておらず、在宅医療サポートセンターの PRが不足していることが考えられた。</p>	<p>平成30年度から、市が直接、在宅医療サポートセ ンターを設置(委託)することになるが、今後も医療や介 護を受けながら、安心して自宅で過ごせるような環境 を作れるよう、在宅医療・介護の相談窓口を整備して いくとともに、相談窓口のPRを行う。</p>

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

## 基本目標Ⅲ 質が高く安定した介護保険事業運営

### 1 介護サービスの質的向上の促進

#### (1) 個別ケアの推進 (第6次計画 P97)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	介護職員の研修や、保険者指導を通じ、個別ケアを推進する。	【介護職員(通所系)現任者研修の状況】 ・基礎コース 全4回 受講者数 21人 ・合同講義 全2回 受講者数 35人	【介護職員(通所系)現任者研修の状況】 ・基礎コース 全4回 受講者数 16人 ・合同講義 全1回 受講者数 65人 【介護施設職員研修の状況】 ・全3回 受講者数25名 (内全講座受講者20名)	例年同様実施予定であるが、詳細は未定。 (10月以降で実施予定)	A	介護職員(通所・施設)に向けた研修を開催し介護職員の資質の向上を図った。	【介護職員現任者研修】 今後も多様な講師を迎え、座学だけでなく実際に使える技術を学び、介護に従事する職員のスキルアップを目指す。
		【保険者単独の実地指導の状況】 ・6事業所	【保険者単独の実地指導の状況】 ・7事業所	例年同様実施予定。 新規指定を受けた事業所で、これまでに実地指導を行っていない事業所を中心に行う。	A	実地指導を行い、質の高い安定した事業が運営されるように適正化を図った。	【保険者単独の実地指導】 新規指定の事業者を中心に今後も実地指導を行い、質の高い安定した事業が運営されるように適正化を図ります。

#### (2) 人材の確保及びサービスの質の向上 (第6次計画 P98)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	質の高いサービスが提供されるようにするため、研修などを通じて介護保険サービス事業者の資質の向上を図り、安心かつ適切なサービスが提供されるよう支援する。	【介護支援専門員向け研修(ケアマネカレッジ)の状況】 ・スタンダードコース 全15回 受講者数 19人 ・主任ケアマネコース 全5回 受講者数 26人	【介護支援専門員向け研修(ケアマネカレッジ)の状況】 ・スタンダードコース 全15回 受講者数 18人 ・ステップアップコース 全7回 受講者数 20人	【介護支援専門員向け研修(ケアマネカレッジ)】 ・スタンダードコース 全15回(予定) 受講者数 未定 ・ステップアップコース 全7回(予定) 受講者数 未定	A	小牧市介護支援専門員連絡協議会、小牧市社会福祉協議会と連携し、介護支援専門員向けに研修を開催し、資質の向上を図った。	引き続き、小牧市社会福祉協議会と連携し、介護支援専門員向けに研修を開催し、資質の向上、職員同士の連携強化を図る。

#### (3) 介護サービスに関する情報提供の充実 (第6次計画 P98)

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	より多くの場所で市民が介護保険について情報を得ることができるよう工夫した広報活動を推進し、介護保険サービスに関する情報提供の充実に努める。	【介護展の開催状況】 ・介護展開催回数 1回 ・参加者数 約200人	【介護展の開催状況】 ・介護展開催回数 1回 ・参加者数 約300人	6月25日(日)に市民館にて開催予定	A	サービス事業者連絡会、社会福祉協議会と連携し、介護展を開催し、介護保険サービスの情報を提供した。	【介護展】 事業所サイドとしては、施設について広く市民に対してPRできる機会であり、利用者(市民)サイドとしては、実際に目で見たり話を聞いたりできる機会であるため、お互いのニーズが一致した催しと考えている。 今後も引き続き開催し、介護についての情報提供の充実に努めたい。
		【いきいきファイル配布状況】 ・配布数 約400部	【いきいきファイル配布状況】 ・配布数 約400部	【いきいきファイル配布】 ・配布数	A	要支援・要介護認定を受けて転入してきた方や希望する方に、介護の状況などを記録することができる「いきいきファイル」を配布した。	【各種印刷物の印刷、発行】 今後も、介護保険や事業所についての情報提供を進めるべく、パンフレットや各種一覧、サービスマップ等の印刷物を作成し窓口や催しの際に配布する。
		【介護保険サービス事業所一覧作成】 ・作成数 230部	【介護保険サービス事業所一覧作成】 ・作成数 230部	【介護保険サービス事業所一覧作成】 ・作成数	A	新しい総合事業を踏まえ情報が伝わりやすい様式に変更したパンフレットを作成した。また、介護保険サービスについて、広報、ホームページ等を通じて周知・啓発に努めた。	
		【みんないきいき介護保険作成】 ・作成部数 4,000部	【あったかいね介護保険作成】 ・作成部数 4,000部	【あったかいね介護保険作成】 ・作成部数	A		
		【介護保険サービスマップ作成】 ・作成部数 800部	【介護保険サービスマップ作成】 ・作成部数 800部	【介護保険サービスマップ作成】 ・作成部数	A		
			【総合事業パンフレット 「いつまでも自分らしく暮らすために」作成】 ・作成部数 5,000部	※作成部数については今後調整			

# 第6次小牧市高齢者保健福祉計画進捗状況調査報告

(4)介護給付等費用の適正化（第6次計画 P99）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	給付費通知の送付やケアプランの点検等により、個々のニーズにあった効果的なサービス提供が行われるよう給付の適正化を図る。	【介護給付費通知発送状況】 ・給付費通知発送数 13,511通  【ケアプラン点検状況】 ・ケアプラン点検数 11事業所 48プラン	【介護給付費通知発送状況】 ・給付費通知発送数 14,024通  【ケアプラン点検状況】 ・ケアプラン点検数 5事業所 68プラン	【介護給付費通知発送】 ・給付費通知発送数 14,800通(予定)  【ケアプラン点検】 ・ケアプラン点検数 70プラン(予定)	A	【介護給付費通知】 要支援・要介護認定者のうち、介護保険給付実績のある被保険者に対して、年4回(3, 6, 9, 12月)給付費通知を送付した。  【ケアプラン点検】 給付適正化事業として、市内4事業所及び市外1事業所のケアマネジャーに対してケアプラン点検を行い、給付の適正化に努めた。	【介護給付費通知】 引き続き、要支援・要介護認定者のうち、介護保険給付実績のある被保険者に対して、年4回(3, 6, 9, 12月)給付費通知を送付する。  【ケアプラン点検】 今後も、市内及び市外の事業所のケアマネジャーに対してケアプラン点検を行い、給付の適正化に努める。
介護保険課	要介護認定においては、研修を通じて調査員の質の向上を図るほか、調査の事後点検を実施し、要介護認定の適正化を図る。	【研修の実施状況】 ・日時 平成27年5月22日 ・場所 小牧市役所 ・参加者 現任者研修 85人 新任者研修 16人  【事後点検の実施状況】 ・審査判定の対象となった全件実施。	【研修の実施状況】 ・日時 平成28年5月20日 ・場所 小牧市役所 ・参加者 現任者研修 91人 新任者研修 13人 ・厚生労働省管轄の認定調査員向けeラーニングシステムの活用を推奨  【事後点検の実施状況】 ・審査判定の対象となった全件実施。	【研修の予定】 ・日時 平成29年5月26日  【事後点検の実施状況】 ・審査判定の対象となった全件実施。	A	定期的に研修及び全ての調査票の事後点検を行うことにより、調査員のスキルの向上、原則に則った調査方法の再確認を行う事ができ、要介護認定の適正化に努めた。	引き続き、要介護認定においては、研修を通じて調査員の質の向上を図るほか、調査の事後点検を実施し、要介護認定の適正化を図る。

2 介護サービス提供事業者への支援

(1)事業者連絡会との連携強化（第6次計画 P100）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	小牧市介護保険サービス事業者連絡会との連携強化を図り、介護保険サービス事業者同士が情報提供・共有をすることで、利用者が適切にサービスを選択できるよう支援する。	【小牧市介護保険サービス事業者連絡会会議開催状況】 ・総会 1回 ・幹事会 6回	【小牧市介護保険サービス事業者連絡会会議開催状況】 ・総会 1回 ・幹事会 6回	【小牧市介護保険サービス事業者連絡会会議開催】 ・総会 1回(4/22開催) ・幹事会 6回/年開催予定	A	サービス事業者連絡会の幹事会を年6回行い、行政、各事業者間で情報交換・共有することで連携を図った。また、必要に応じて定例会を行った。	今後も総会・幹事会を通じて事業所との連携を取り、情報の共有と利用者へのより良いサービスを提供するよう努める。

(2)介護サービスに関する情報提供の充実（第6次計画 P100）

関係課	目標	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度の実績(実施予定)	進捗評価	進捗評価の理由 (特に遅れている理由や原因を記載してください)	第7次の目標、方針、考え方
介護保険課	最新の介護保険制度情報等の提供、制度改正に際し、介護保険サービス事業者連絡会を通じて情報提供を行うほか、必要に応じて出前での講座、広報やホームページを通じた情報提供に努める。	【事業者に対する説明会の実施状況】 ・実施回数 3回 ・内容:介護保険法改正について 新しい総合事業について  ・ホームページに事業者向けのページを作成した。  【介護保険サービス事業所一覧の作成】 ・作成部数 230部	【事業者に対する説明会の実施状況】 ・実施回数 3回 ・内容:新しい総合事業について(全体会) 口腔ケアについて(訪問介護部会) 防災体制と要配慮者の支援について(施設部会) ・ホームページに事業者向けのページを作成した。  【介護保険サービス事業所一覧の作成】 ・作成部数 240部	【事業者に対する説明会の実施状況】 ・実施予定あり(詳細未定)  ・事業者向けのホームページを更新、充実を図る。  【介護保険サービス事業所一覧の作成】 ・作成部数 240部(予定)	A	介護保険サービス事業者連絡会を通じて行政の通知等の情報を提供した。  法改正や新しい総合事業について説明会を行い情報を提供した。  ホームページの事業所向けのページで事業者に情報を提供した。	国や県からの通知について、サービス事業者連絡会等を通して、速やかに情報提供を行うとともに、ホームページに掲載し、広く周知する